

## 推計震度分布図の提供開始について

内閣府と気象庁では、地震発生後速やかに震度を面的に表示した「推計震度分布図」の提供を開始します。これにより、地震に伴う強い揺れの広がりを迅速かつ的確にとらえることで、防災機関による効果的な応急対策の実施が可能となります。

この「推計震度分布図」は、平成7年の阪神・淡路大震災を受けて、内閣府（当時の国土庁防災局）と気象庁で、震度の広がりを速やかに把握するための技術開発を続けてきたもので、この度、その精度評価により実用化の目処が立ったことから、提供を開始するものです。

### 推計震度分布図

地表で観測される震度は、軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さくなる傾向があるなど、地盤の影響を大きく受けます。このため、震度計で観測された震度をもとに、地盤増幅度※を使って震度の推計を行います。推計震度分布図は、約1km四方の格子間隔で推計した震度5弱以上の震度分布を（参考のためその周辺の震度4の分布を含めて）表示したものです。

特に大きい震度が推計された場合などには、地域の広がり等について必要な解説を行います。

### 提供方法

#### （1）提供基準

全国いずれかの観測地点で震度5弱以上を観測したとき。

#### （2）提供開始日

平成16年3月1日

#### （3）提供方法

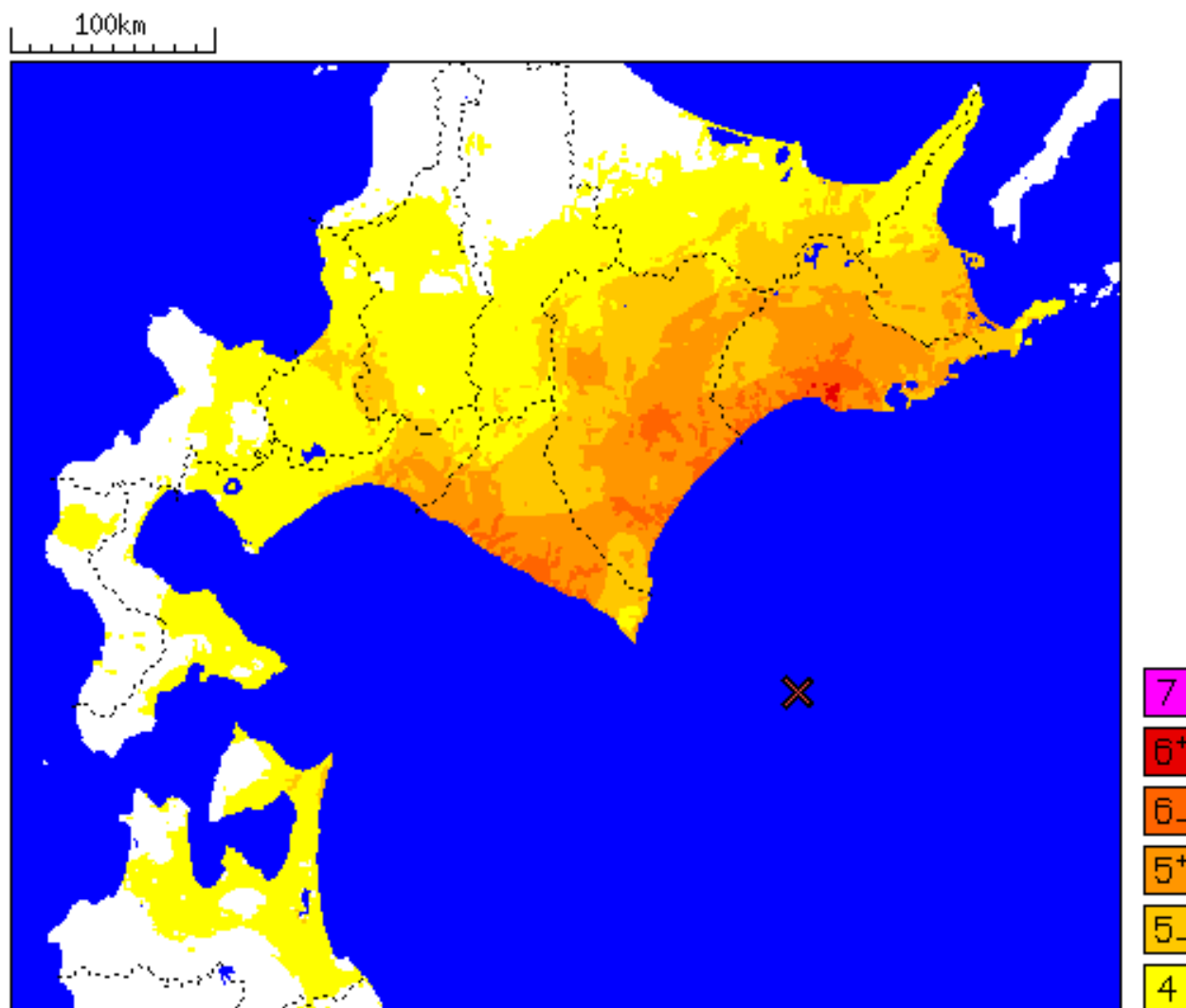
地震発生後約1時間後を目途に、都道府県等関係防災機関に提供するとともに、気象庁が行う緊急の報道発表において「推計震度分布図」を提供し解説します（同時に気象庁ホームページに掲載します）。

#### ※ 地盤増幅度

地表付近（地下の基準となる面から地表まで）における揺れの増幅を表す指標。軟弱な地盤では大きな値に、固い地盤では小さな値になります。

## 緊急の報道発表時に提供する例

### 2003年十勝沖地震（M8.0 深さ45km）の推計震度分布図



#### 〔解説〕

日高支庁の海岸付近、十勝支庁の十勝川流域の平野部、釧路支庁の釧路平野などで、震度6弱の地域が広がりをもって分布しています。また、釧路平野の一部では震度6強の揺れがあったと推計される地域が見られます。この付近は湿原地帯で特に揺れが大きくなりやすい場所です。

これらの地域では被害の確認と、今後の余震による被害拡大への注意が必要です。

#### <推計震度分布図利用の留意事項>

個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な拡がり具合とその形状に着目してご利用下さい。